

除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 ～プラットフォームの立ち上げ～

除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組

～プラットフォームの立ち上げ～

背景

- ・北海道開発局の発足(昭和26年)を機に、都市部を中心とした国道除雪が始まったが、当時の除雪車は、性能的に十分ではなく、故障も多かった。このため、北海道開発局が主体となり、民間と共同で除雪車を開発し、高機能化を図り、効率的な除雪作業を実施してきました。
- ・しかしながら、近年、異常気象による暴風雪等の冬期災害が頻発し、長時間の通行止めが発生、また、オペレーター等の高齢化が進んでいるため、さらなる効率化が求められています。



昭和30年代 ローター除雪車



昭和40年代 ローター除雪車



現在のロータリー除雪車(一車線積)

課題

- ・暴風雪時等の早期の交通開放(通行止め解消)等
- ・将来にわたる除雪作業従事者の確保。

取り組み

- ・積雪路面下、暴風雪等の視界不良時にも、安全に除雪作業が可能となるよう、準天頂衛星の使用も視野にいたした最新のセンシング技術を活用し、北海道における i-Construction の取組として、除雪現場の省力化を進め、生産性・安全性を向上させます。

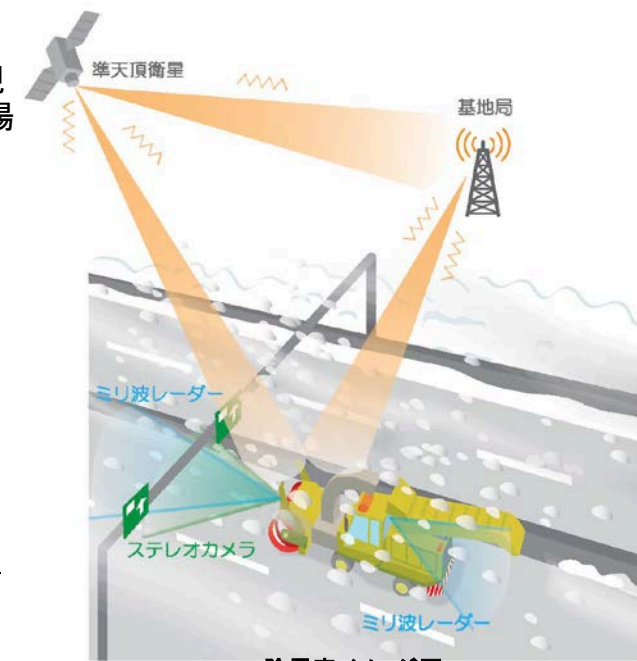
効果

- ・悪天候でも通行可能な管理水準を常時維持し、天候回復時に孤立地域を早期に解消。建設業界の人材不足にも貢献

人口減少下でも人とモノの交流・対流を活性化させ、産業構造、経済活動を維持・発展させる

進め方

- ・産官学民金が連携して技術開発等に取り組むプラットフォームを立ち上げ、除雪現場の省力化に向けて北海道開発局が先導的役割を果たします。



除雪車イメージ図